

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

平成28年度
ゲノム病理標準化センター
第5回 病理標準化センター講習会 報告書

於 九州大学

平成28（2016）年 7月

第5回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

今回は、初めて「西での開催」ということで九州大学コラボレーション I を会場として、ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成を目的とした「第5回ゲノム病理標準化センター講習会」を平成28年6月18日（土）に開催した。

過去4回の講習会は、第1回講習会は「ゲノム病理標準化センター講習会」を行っていくための「実証講習会」として、2015年3月28日、29日の2日間、第1日目に座学講習、第2日目は実習講習を行い、日本病理学会の委託事業である「組織取扱い規定」を作成するために実証研究に関わっている施設の医師や技師、ゲノム研究の第一線の先生方など、のべ94名の方が参加した。第2回講習会は2015年8月8日、9日の2日間、JCOGの臨床研究グループの先生方を中心に、第1日目座学講習、2日目実習講習の構成で、2日間でのべ74名の医師および技師の方々にご参加いただいた。第3回講習会は、座学による講義講習を企画し、既に技術的なノウハウに関しては精通している臨床検査技師をはじめ、技術系の先生方、バンキングを担当あるいは計画されている施設、部門の責任者の医師等を中心に参加していただき、さらにゲノム医療の実践というアウトカムを意識して、製薬会社や試薬メーカーの方々にも参加を呼びかけ、77名の方々の参加があった。第4回講習会では、日本病理学会へのAMEDよりの委託事業である「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」をハンドアウトとともに参加者全員に無償配布し、2016年3月12日（土）、13日（日）の2日間、座学と実習による講習会を開催し、のべ65名の参加者があった。

今回は、主催者を代表して九州大学 副学長 石橋達朗氏のご挨拶に始まり、講義では、「ゲノム医療実現に向けたオーダメイド医療の実現プログラムの取り組み」として、理化学研究所 統合生命医科学研究センター 統合生命医科学研究センター 統合生命医科学研究センター 副センター長 久保充明氏に、また「東京大学医科研究所におけるBBJ病理組織バンキング」について、東京大学 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 教授 松田浩一氏にご講演いただいた。

さらに「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで、日本病理学会 ゲノム病理診断検討委員会 委員長 九州大学院医学研究院 形態機能病理学 教授 小田義直氏より、「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演があり、次いで日本病理学会のAMED委託

事業である実証研究に関して、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の解説」と題して、日本病理学会ゲノム病理組織取扱い規約委員会 委員長 慶應義塾大学医学部 病理学教室 教授 国立がんセンター研究所 分子病理分野長 金井弥栄氏よりご講演いただいた。製本されたテキストの内容はこれまでの講習会よりもさらにブラッシュアップされたものであり、非常に充実したものであった。

参加者は 62 名で九州地区を中心に北は旭川医科大学からの参加もあった。なお、今回の講習会参加者には、日本病理学会 病理専門医更新領域別講習単位 2 単位が、また日本臨床検査技師会の生涯教育単位が付与された。

講習会の終了にあたり、聴講生には修了証書が授与された。また聴講生 1 人 1 人には「ゲノム病理標準化センター講習会ホームページ」で講習内容が復習可能なコンテンツの閲覧と e-ラーニング（履修後、修了証を発行）が受講できるように専用の ID、パスワードを配布し受講を促した。

（文責 東京大学医学部附属病院 病理部 佐々木毅）